

活気に満ちた3年ぶりの「大蛇山」まつり



本宮彌劔神社



三區八劔神社



大牟田神社第二区祇園

おまつり広場に大蛇が帰ってきた！

「第60回おおむた『大蛇山』まつり」のメインイベントが、7月23日と24日の2日間、大正町おまつり広場で行われました。過去2年間は新型コロナウイルスの影響で開催が見送られたため、3年ぶりの開催となりました。開催にあたっては、多くの関係機関、団体、市民の皆さんのご協力、ご尽力があったことに深く感謝します。

2年分の思い

23日の一万人の総踊りには、28団体、約1350人が参加しました。炭坑節と大蛇山ばやしが大正町通りに流れると、自然に体が踊り始めます。浴衣姿の若者もたくさん見られました。祇園六山巡行では、勇壮な姿の大蛇山が火煙を吐きながら、大正町おまつり広場を練り歩きました。子どもの無病息災を願う「かませ」には、親子連れの長蛇の列。会場は熱気にあふれ、まつりを開催できなかった2年分の思いがこもった気迫ある大蛇山の競演やアピールに、見物客は魅了されていました。

24日の大蛇山大集合パレードでは、市内各所から集合した大蛇山にお囃子、踊り子衆にと、観客も大興奮の様子でした。

今年は、大正町おまつり広場への参加は控え、それぞれの地元で地域巡行を行った山もありました。場所の違い、おまつりに掛ける思いは一つに大牟田を盛り上げました。

コロナ禍での開催

しかし、いまだコロナ禍というこ

ともあり、開催にあたっては、おおむた『大蛇山』まつり振興会において、何度も検討・協議を重ね、まつりの伝統を継承し、まちの活性化を図るため、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底して開催しました。福岡県の指導のもと感染対策ガイドラインを策定して周知に努め、観客エリアと飲食エリアを分けるなどの対策も行いました。さらに、出演者への事前検査の徹底、観客へのマスク着用の呼びかけ、まつりのライブ配信など、できる限りの感染対策も講じました。

当日は、ほとんどの観客がマスクを着用し、決められたエリアで飲食をするなど、感染対策を行いながらまちに元気を与えるまつりを開催できました。



アフターコロナに向けた第1歩 第60回おおむた「大蛇山」まつり

どうにかまつりを動かしたい

まつりを催すことは当たり前と考えていたコロナ禍前のあの頃から、まつりをできずに止まってしまった時間を3年ぶりにやっと動かすことができました。

第60回おおむた「大蛇山」まつりの実施の可否から新型コロナウイルスの感染対策まで、多くのことを実行委員会等でさまざまな方との協議を重ねました。振り返ると、まつりを開催することができたのは、携わっていただいた多くの皆さまの温かいご理解・ご支援と共に「どうにかまつりを動かしたい!」という共通の想いがあったからだと感じています。

安心・安全を優先

実行委員長という大役を経験させていただいた中で、まつりの安全・安心を最優先に考え、試行錯誤し、見に来られた方々の表情がまつりに携



おおむた「大蛇山」まつり振興会
実行委員長 田中 雄二さん

わる人たちと同じようにさまざまな想いが笑顔になった2日間だったと、私の目には忘れられない光景になりました。今後とも続いていくまつりを「誰が何のためにどう行うべきなのか」全体で考える時期が今まさに来ていると考えようになりました。これからも愛され続けるまつりとして在るべき姿になるために、まつりを通して大牟田がひとつになるように。

アフターコロナに向けた第1歩として、まつりに携わっていたいただいた方々の素敵な輪がどんどん広がり、これからも愛されるまつりであり続けますことを祈念して、御礼の言葉と致します。



まつりに沸いた夏!

